



中丹の教育

まなび通信〔府立学校版〕

京都府中丹教育局

第73号

令和7年8月25日



<https://www.kyoto-be.ne.jp/tyuutan-k/cms/>

全ての子どもたちが自立して次代を生きていくために

中丹地方中高連携推進会議(7月14日開催)

中丹教育局では、全ての子どもたちの「社会的・職業的自立」を共通の目標に、幼児期から系統的に指導を進めることで変化の激しいこれからの社会を生きていく力が育成できると考えています。中丹地方中高連携推進会議では中学校と府立高校が教科や領域等様々なテーマで連携を進めており、令和5年度からはキャリア教育・進路指導をテーマに開催しています。こうした様々な連携の積み重ねが、教職員の校種間理解や円滑な学校段階間の接続につながり、子どもたちが安心して学べる環境づくりや校種を越えた学びの連続性に結びつき、当局の学校教育の重点である「魅力ある学校づくり」の実現につながると考えています。



パネルディスカッション

中学校の先生方より

高校に入ることが目標ではなく、その高校に入って3年間どんなことを頑張りたいのか、3年後どんな自分になりたいのか、その後はどうしたいのかを意識して志望先を決めるように伝えています。

生徒がどんな自分になりたいのかを先生や保護者と一緒に考え、生徒本人が自分の目標を見つけ出すスタンスが大切です。そのために、教員が生徒一人一人にとことん向き合い伴走することで、生徒に「自分で自分の進路を決めた」という意識を持たせたいと思います。

府立高校の先生方より

個人面談は、年間を通じて全員に対し何度も行っています。また、学力保障の観点から、数学や英語の習熟度別講座、昼休みや放課後の補充学習により、学びなおしや学びの基礎づくりを年間を通じて行っています。欠席がちな生徒には日頃からの声かけとともに、こまめな家庭連携、生徒との面談等を行っています。高校卒業後の希望進路は多岐にわたり、試験のタイプも様々です。それぞれの対策を全教職員が分担して行っており、生徒にとっては強力なサポートになっていると思います。希望進路については、教員から様々な提案したり相談に応えられるよう、いろいろな大学や専門学校、就職先等について教員が積極的に説明会等に出向き、情報収集するようにしています。

研究協議

義務教育終了時に付けておくべき能力・態度、学校生活を通じて身に付けたいこと(19項目)をもとに、全ての子どもたちの「社会的・職業的自立」を目指して、中学校と府立高校が協力してできることを考えました。キャリア教育や進路指導について各校の状況を交流することで、校種を問わず子どもたちのために寄り添い、卒業後の姿を見据えて指導をされていることが分かり、同じ公立学校として一緒に子どもたちを見守ろうという視点が共有されました。



【参考】文部科学省「義務教育に関する意識に係る調査概要・集計結果(令和6年3月5日差し替え)」p58



振り返りと今後の展望

中学校の先生方より

- ・府立高校はとてもドライな対応をされていると思っていたが、学力に課題のある生徒や欠席がちな生徒の対応など、中学校と同じように何とかしようとされていることが分かった。
- ・「行ける高校」を求める生徒や保護者に対して「行きたい高校」を見つけさせるのが中学校教員の姿勢だと思う。
- ・高校の先生方が言われていた「計画的に学習に取り組む力」「基礎学力をしっかりと付けること」「自分の可能性をあきらめない力」「何をしたいか目標を持つこと」等の力を付けて中学校を卒業できるよう学年集会などで伝えたい。
- ・各校の体験に行くよう指導することは大切だが、教師がしっかり情報を伝えること、生徒に身に付けさせたい力とは何か、どのように身に付けるべきかを話し合うことを大切にしたい。

府立高校の先生方より

- ・「学力向上」「不登校への対応」については、不安を抱えている中学生や保護者もおられると思うので、説明会等で触れていきたい。
- ・中学校の先生方は、行ける高校ではなく入りたいと思える高校を選ぶこと、高校で学んでいくための学習習慣の確立等を指導してくださっている。その思いに府立高校が応えていくこと、応えていることを中学校に伝えていくことが大切だと思う。
- ・公立高校を選んでもらう意義や意味は何なのか。高校教員一人一人がその考えを持てるようにしていきたい。
- ・グループ協議の中で、中高で総合的な学習(探究)の時間を利用して何か取り組めればよいという話が出ていたので、本当に何かやってみようと思っている。
- ・生徒一人一人の内面理解に努め、寄り添い、支援していきたい。生徒に一番身近な大人として、教員である自分が生徒にしっかりと向き合っていきたい。